

『自動車保険』掛け方ガイド・・vol. 29 自動車保険概要③

前回は自動車事故における損害賠償について、その法的根拠という観点で考えてみました。そこで今回は事故を防止する視点から事故の原因となる事象について考えてみます。

現在、日本国内では約8,000万台の自動車が走り、年間5,000人近くもの尊い命が交通事故により失われています。こんなに多くの交通事故が発生してしまうのは、いったいどのような理由によるものなのでしょうか。また、交通事故の原因となるような走行時の特殊現象にはどのようなものがあるのでしょうか。

まず自動車が安全に走行するには、「人」「車」「環境」の三要素が整っていなければなりません。ここに不均衡が生ずると事故が発生します。この中で最も事故の発生に関与する要因は「人」です。運転者は1件の事故の中で様々なエラーを犯しています。

運転行動は **1. 認知** **2. 判断、予測** **3. 操作、行動** この連続です。

認知の遅れ、判断の誤り、操作の誤り といったエラーの連続から事故となっています。そして次の要因となるのが走行時の特殊現象です。いくつかの事例で考えて見ましょう。

1. ドリフト・スピン

カーブを走行する際、遠心力により、自動車は円の外側に飛び出そうとする力を受けます。その際に遠心力と釣り合った横力（タイヤ路面間の摩擦力）をタイヤが発生させれば自動車は運転者の意図する方向に進行することができます。しかし遠心力がタイヤと路面の摩擦力の限界を超えると自動車はスムーズな円旋回ができず、旋回半径が急に大きくなった（この状態をドリフト）巻き込み状態（この状態をスピン）となったりします。

2. ハイドロプレーニング現象

自動車が水の溜まった路面などを走行中にタイヤと路面の間に水が入り込み、車が水の上を滑るようになり、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象をいいます。路面に溜まった水の量がタイヤの排水能力を超えた場合に発生します。具体的には「タイヤの溝の磨耗」「路面の水量の増加」「タイヤの空気圧不足」「速度超過」などで発生すると考えます。

3. スタンディングウェーブ現象

空気圧が低いタイヤで高速走行を行った場合、タイヤの設置面より後方が波状に変形することをいいます。この現象が発生すると、タイヤが不規則に揉まれている状態となりタイヤが急速に加熱され、短時間でバースト（破裂）してしまうことが多くあります。

この他にもブレーキの使用による過熱からフェード現象、ペーパーバック現象などブレーキが効きにくくなる現象等があります。

事故防止のためには、このような走行時での不測の事態も常に想定内に運転しなければならないと考えます。